

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

第10回 開催報告

駅前ちゃれんじ！実践編

～高校生の「やりたい」と地域の「ほしい」をカタチに～

2026.3.15

開催報告

テーマ

駅前ちゃれんじ！実践編 ～高校生の「やりたい」と地域の「ほしい」をカタチに～

開催概要

- 日時 : 2026年3月15日（日）13:00-16:00
- 開催場所 : 伊那市生涯学習センター「いなっせ」
- 参加者 : 43人（一般参加：27人、協議会メンバー・市職員・関係者：16人）
- ファシリテーター : 長野県伊那北高等学校卒業生 佐野 天咲 さん

プログラム

1. 伊那北駅周辺整備概要説明 / 前回ワークショップの振り返り

説明者：都市整備課伊那北駅周辺整備係 辰ノ口 祐三 / 伊那北駅周辺再生WG 笠井 成樹

2. 佐野さんの取り組み紹介

説明者：佐野 天咲 さん

3. グループワーク「伊那北駅前広場での社会実験企画 ～私の考える駅前広場の新しい使いこなし方～」

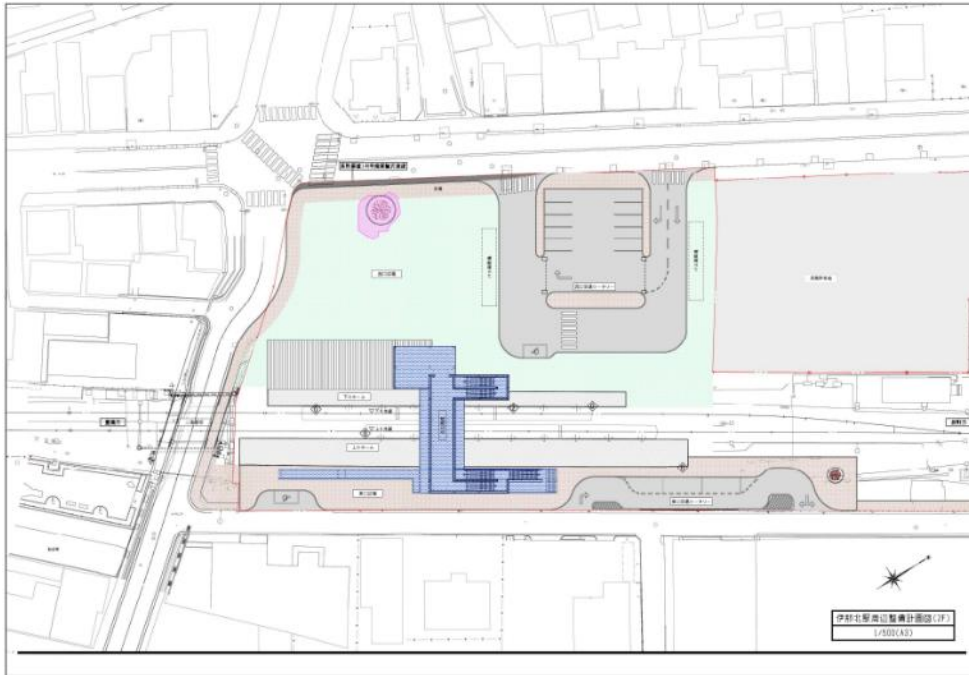
意見交換 / コラージュ作成

4. 地域資源の掘り起こし



佐野 天咲 さん

伊那北駅周辺整備概要説明



■都市整備課より伊那北駅周辺整備の概要説明

- ・ 県立高校再編による伊那新校（仮称）、上伊那総合技術新校（仮称）の開校により、伊那北駅の利用者が増加することは明らか。
- ・ 現状の駅前広場を約2倍に拡張し、「歩車分離構造」とすることで、歩行者の安全を確保。
- ・ 「東西自由通路の設置」や「地域交流拠点施設の整備」などにより、駅周辺の利便性を向上。
- ・ その他、「東口広場の新設」や「交通結節点機能強化」、「まちなかウォークアブルの推進」により、渋滞緩和・歩行動線確保などの駅周辺空間の価値向上を図る。
- ・ 駅前広場の詳細は、「対話・つながり・実現の場」など、市民との対話を通じて意見聴取していく。

前回ワークショップの振り返り



■前回（2025年9月）の「対話・つながり・実現の場」を振り返り

※振り返り前に「一昔前の“伊那北駅周辺のまちの営み”」のスライドショーを上映。

- ・ 前は伊那北高校3年生がファシリテーターを務め、終始和やかな雰囲気で開催された。
- ・ 自分たちが「駅前広場で何をやりたいか」を考え、対話を通じて、グループ毎にコラージュを作成。
- ・ 駅そばやマルシェ、地域イベントなど、様々な「やりたい」アイデアをコラージュで表現。
- ・ これまで知らなかった地元の歴史、想いなどの新しい発見を得た参加者も。
- ・ 小学生から大人まで幅広い世代が対話し、一緒に手を動かすことで一体感が生まれた。

佐野さんの取り組み紹介



■佐野ファシリテーターより自身の取り組みを紹介

- ・令和5年に伊那北高校を卒業。
- ・大学休学中に古民家カフェ「Sekai no Monogatari」（西春近）の店長に。
- ・「伊那市中学生キャリアフェス」副実行委員長や「いなまちたしゅう室」管理人など、地域との関わりから「地域の可能性」や「人とのつながり」の重要性を認識。
- ・大学進学後、「世界一周大学」や「HLAB」などの地域外での出逢いや、刺激し合える同世代のつながりから「選択肢・生き方の広がり」、「フィールドの拡大」の大切さを肌で感じた。
- ・地域内でも多様な生き方に出会える一方、地域外に出ることで自分の知らなかった世界の広さを実感。
- ・地域内外双方の可能性を知ること、より納得感のある選択を自らの手で行うことができる。
- ・自分は「本気の大人」に触れさせてもらう機会が多かった。

<地域の中での出逢い>

伊那市中学生キャリアフェス、いなまちたしゅう室、UTバレット etc.

- * 地域の可能性
- * 選択肢、生き方の広がり
- * 応援してくれる大人の存在、人とのつながり
- * コミュニケーションや協働の可能性
- * とりあえずやってみる精神



<地域の外での出逢い>

ゼミ活動、世界一周大学、HLAB etc.

- * 刺激を与え合える同世代とのつながり
- * 選択肢、生き方の更なる広がり
- * フィールドの拡大

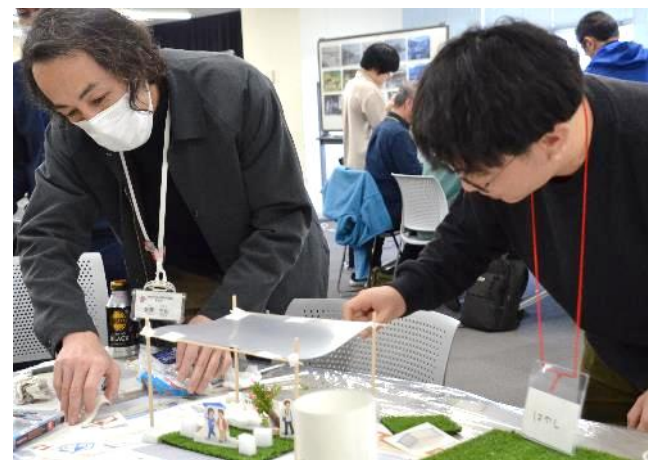


グループワーク（コラージュ作成）

「伊那北駅前広場での社会実験企画 ～私の考える駅前広場の新しい使いこなし方～」

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場



■グループワーク（意見交換）の内容をコラージュで表現

- ・グループ全員で1つの目標（社会実験企画）に向けてコラージュを作成。
- ・様々な素材を駆使し、各グループ個性的な成果品に。
- ・終始和やかな雰囲気でのグループワークとなった。

地域資源の掘り起こし



■ 成果品の発表と地域資源の掘り起こし

- ・各グループからコラージュの発表。
- ・発表を聞いた参加者は、実現のために提供できそうな地域資源を提案し、各グループのコラージュに貼付。
- ・漠然とした「やりたい」という想いだけでなく、実現に向けて「必要な資源」と「使える資源」をマッチングし、企画の実現性を高めるとともに参加者の自分事化を醸成。

グループワーク（コラージュ作品）

「伊那北駅前広場での社会実験企画 ～私の考える駅前広場の新しい使いこなし方～」



グループワーク（グループ記念撮影）

「伊那北駅前広場での社会実験企画 ～私の考える駅前広場の新しい使いこなし方～」



参加者の感想（抜粋）

■「グループワーク（意見交換）」で印象に残ったこと、感想

- ・それぞれの経験からどのような空間にするか、自分には考えつかないアイデアが出され、立体的なイメージを持つことができました。(40代)
- ・立場が違っていると見ている視点が違うと感じました。高校生／地域／行政のそれぞれの視点が誰に対しても有効に働くように感じました。(40代)
- ・多様な意見が出る中で、まとまるのかな？と心配したが、全て盛り込んでも形になっていく様がとてもよかったです。(50代)

■「グループワーク（コラージュ作成）」で印象に残ったこと、感想

- ・机といすで向き合ってたときにはない、手を動かしながらの対話ことができました。(10代)
- ・思い描いていたものがより具体的になるとともに、制作をしながら話し合いができて楽しかったです。(40代)
- ・やってみる精神の大切さを感じました。自らやってみることで、言葉だけでは気付かない具体的な問題解決のあり方を考えられました。(40代)
- ・具体的な形を作ることでメンバー同士の協力体制が取れ、話が自然にできるようになりました。(50代)

■全体的な感想

- ・さまざまな世代や立場の考えを聞き、一人一人の強みを合わせることで、1人ではできないことが実現できそうだとワクワクしました。(40代)
- ・やっぱり対話っていいですね。(40代)
- ・一度参加するのとしないとではかなり違いがあるように思いました。地域の方の本気が形になっていく過程の一部を拝見できました。(40代)
- ・頭で考えるとマイナス面が浮かび手が止まるが、対話や手を動かすと「もっとできそう」と思えました。いいきっかけを得ました。(40代)
- ・まちづくりには「覚悟」が大事だと改めて感じました。一方で、社会実験に向けてやってみるもののワクワクも感じました。(40代)
- ・1人1人得意不得意が違うけれど、その1人1人の良さや個性を集めると、すごいことができそうだなと感じられた機会になりました。(40代)
- ・様々な人との出会いを通じて、高校生の挑戦を応援したい。それがやがて持続ある人づくりへと繋がるのだと信じています。(50代)
- ・お金のこと考えずになんとかできないかと思いがちだが、改めて経済合理性や儲かる仕組みがなければ持続しないと考えさせられた。(50代)
- ・様々な方の想いに触れ、伊那市在住でなくても自分ごととして考える機会となりました。地元でもこんな対話ができたらと思いました。(40代)

■今後参加してみたい「対話・つながり・実現の場」のテーマ、関りたいまちづくりの取組

- ・伊那北駅前の社会実験。(50代)
- ・完成を間近にしたビジョンに対して様々な立場から意見を出し合えるような場。(40代)
- ・中学生／高校生／地元の60才以上との会話・対話のまちづくり。(70代)

グループリーダーの振り返り

■グループリーダーの振り返り

- ・参加者全員から自分ごととして積極的な発言があり、建設的な意見交換の場となった。
 - ・「ハコモノにお金をかけるよりソフトを充実させるべきである」、「社会実験はおおいにやるべき」など様々な意見が出た。
 - ・「意見をカタチにすることは楽しい」、「広場は人工芝がいい」など前向きな意見も多く、有意義な時間となった。
 - ・次回はより具体的な企画の議論ができればと考える。
-
- ・手を動かし、足で素材を取りに行き、具体的なイメージが全員で共有されるほどチーム感が出てきて良かった。
 - ・「地域資源の掘り起こし」がもっと活発に行われれば、さらに良い場になったのではないかと感じた。
 - ・若い世代の参加が全体の活気につながり、その力を強く感じた。
 - ・今後、若い世代がより入りやすく、継続して参加したくなる環境づくりが必要だと感じた。
-
- ・現状の駅周辺には「座る+食べる」「集まる+話す」「休憩+待つ」「日陰」などの物理的な場所や機能がないとの意見が出た。
 - ・空き店舗の時間貸しや本を貸したり、寄付したり、若い人に渡せる本の置き場があると嬉しいとの声があった。
 - ・駅前広場では、出前を頼んだり自由に飲食したりできるほか、音楽の練習場にしてもよいのではないかと意見もあった。
 - ・これまで出された課題や意見を1テーブル1議題にして、より具体的で深掘りした対話の場とするのも良いかもしれない。
-
- ・世代交流、学生の居場所づくり、グルメフェア、子どもの教育サポート、ボランティアマッチング窓口、イベントなど、様々な提案がある中、「人と人が交流できる空間にしたい」という共通項でまとまった。
 - ・地域や生徒による広場の維持管理体制を作り、空間への愛着形成を育んでいきたいとの意見もあった。
 - ・テントや人工芝は可動式とするなど、幅広い活用を望む声も多かった。
 - ・佐野さんの取り組みや姿勢が非常に印象的で、こういった方々の挑戦を支える仕組みづくり（ハード・ソフト両面）の必要性を改めて感じた。
 - ・地域の歴史や住民の話など、この地域が歩んできた背景を知ることができ、非常に参考になった。
 - ・高校再編により、これまで分散していた生徒が集約されることで、生徒同士のコミュニティが広がる。駅前広場には生徒同士の交流がより深まる空間づくりが求められると感じた。

充実感あふれるワークショップとなりました！



伊那新校、上伊那総合技術新校の開校を契機に、
多様な皆さんとこれからの伊那市のまちを共に考えて創っていきたいという想いで「新しいまちづくり」が始まりました。

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

誰かがやってくれるまちづくりに意見する、ではなく、自分がつくる、取り組む人と共にある。
そんな、つながり、対話し、実現する場をどうしたらできるだろうか。

これからは、想いのある皆さんと共に考え、試行錯誤しながら共創の場をつくっていければと思います。

いつでも、思い立った時に、ふらりと参加でき、まちのこと暮らしのことを気軽に話せる場。
もっと知りたい、もっとやりたい、やってみようが生まれる場。
そんな新しくゆるいコミュニティが生まれる場。

そんな、いつでもそこにある場に育てていきましょう。